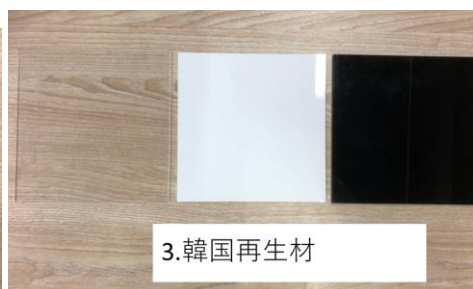


TYPE種類	素材（工場）	製法や特徴	再生の位置づけ（サステナブルとして）	長所	短所	材料のコスト感（通常アクリル板を1とした場合）
TYPE-A	封入再生材（静岡）	アクリル液体の中に粉砕したプラスチックを入れて「 ロック状 」に固める技法。厚みは100t以上も可能。本体：粉砕プラの割合は70%メド。	工場での使用済み廃材やプラスチック製品を粉砕してリサイクル使用はできるが、それを持続可能にリサイクルするにはクリアすべき課題がある。	外観がカラフルで見映えがする（Terrazzoのような表現も可能）アップサイクルの実現	コストは3種の中でいちばん高い	4~6
TYPE-B	キャスト再生材（埼玉）	アクリル液体の中に粉砕したプラスチックを入れて「 シニ上状 」にして板を作る技法。厚みは19tまで。本体：粉砕プラの割合は30%メド。	工場での使用済み廃材やプラスチック製品を粉砕してリサイクル使用し、その板を再度板にすることは可能。最終調整（実際の回収の流れ等）が必要。	サステナブル観点だと一番の得ている。1より安価に製造できる	押し出しとキャストが混ざると粉砕プラの割合がさらに低くなる	2~3
TYPE-C	PLAVEX再生材（仕入れ）	不要アクリルを溶かして 押出成形 で板を製作する技法。韓国の電子部品工場での出た端材を溶解。本体：溶解プラの割合は100%メド。	工場での使用済みアクリルを溶解してリサイクル品を製造することはできるが、一般の使用済アクリルを再利用する流れは作られていない	コストが安い（独占販売取得）、再生率100%、見た目もノーマルアクリルと変わらない	再生板と言われなければ分らない	1
TYPE-D	樹脂（射出成形工場）	射出成形用のプラスチックに再生粉末を加えてショット	石油の使用量を減らす「減プラ」で、リサイクルを継続することは現状できていない。	単価を安く抑えることができる	金型代がかかる	



農業廃棄物由来のバイオプラスチック「TEXa」

TEXaは、マレーシアの大手コンゴロマシアムであるTEXSEMグループが開発した。お米のぬめり（ヘム糊の糊化）など、従来廃棄されるぬめりを再利用したバイオプラスチックです。原料の31%に農業廃棄物由来のバイオベースプラスチックを使用し、残りの49%に石油由来のプラスチック（添加物を配合しています）。農業廃棄物を利用できると同時に、石油由来のプラスチックの使用量とCO2排出量を削減が可能です。

- 射出成型とシート成型に対応可能なバイオプラスチック
- TEXaに49%含まれる石油由来のプラスチックはPP、PE、エラストマーの3種類

「TEXa」の強み

- PPと同レベルの耐久性があり幅広い用途に設計可能
- 原料調達段階のCO2排出量は石油由来品に比べて49%減
- すでに東南アジアを中心に上市実績多数（日本国内でも実績あり）

「TEXa」を使用したバーテーション用スタンド

SIZE : W200 × D30 × H170mm
PRICE : ¥2,400（上代価格） / 数量等は別途
MATERIAL : TEXa
APPEARANCE : 毛糸の織り質感が残り、高級感のある仕上がりになります。

石灰石由来のリサイクルプラスチック「LIMEX」

LIMEXは、株式会社TSMが開発した石灰石を主成分としたリサイクルプラスチックです。原料の33%に石灰石を原料とするLIMEXシートの増材を配合したペレットを使用し、残り67%に石油由来のプラスチック（添加物を配合します）。厚みのある見事でなく、地味上に産業に存在する石灰石を利用して、石油由来のプラスチックの使用量を削減し、CO2排出量を削減が可能です。

- 射出成型シート成型に対応可能なリサイクルプラスチック
- LIMEXに67%含まれる石油由来のプラスチックはPP、PEの2種類

「LIMEX」の強み

- PPと同レベルの耐久性があり幅広い用途に設計可能
- 原料調達段階のCO2排出量は石油由来品に比べて49%減
- 厚みのある見事でなく、地味上に産業に存在する石灰石を利用して、石油由来のプラスチックの使用量を削減し、CO2排出量を削減が可能です。

「LIMEX」を使用したバーテーション用スタンド

SIZE : W200 × D30 × H170mm
PRICE : ¥2,400（上代価格） / 数量等は別途
MATERIAL : LIMEX
APPEARANCE : ツヤのあるソフトな質感で、磨かれた石をほうりつときます。

TYPE-A
【封入再生材】

TYPE-B
【キャスト再生材】

TYPE-C
【PLAVEX再生材】

TYPE-D
【射出成形再生】